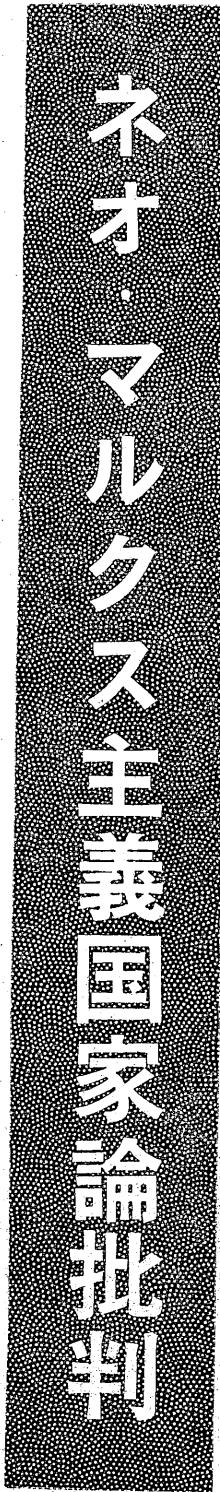


日帝の戦争攻撃と対決する 労働運動を創立しよう

中東湾岸戦争は、日本の政治動向に大きな転換をもたらした。「平和と民主主義を守れ」といっていた社会党や共産党が、今や程度の差はある「国連による平和維持活動に協力すべきだ」といはじめている。国連が帝国主義の世界支配の道具となっている事実を隠蔽してある。

「平和を守れ」と呼びながら戦争に巻き込まれることに反対していた既成「革新」勢力が、戦後四十五年を経て、「日本が平和のためにどのように国際的に貢献するのか」と問われたときに、「貢献」という積極的な姿勢は敗れ去った。さらにだれのため何ための平和か問うことなしに「平和」を擁護し、帝国主義に反抗する民族解放闘争を抑え込む傾向や、「憲法」を抑えることによって、「新条約」を国際理念に」といつた理念的な絶対平和主義が生まれ、戦争反対をたどり、このように反戦平和闘争の転換期に立っている。



(10)

山 村 信 二

一

チエコスロバキアとボーランドにおける「体制内改革」運動上の国家をめぐる主張は、力ガルリツキ「ラ急進改革派」の関係の変化の一定の可能性と④みならずネオ・スターリニズムに抗してペレストロイカ貫徹を標榜するソ共内勢力にもひきつがれている。今号はそれらのなかから、ソ連科学アカデミー・「世界経済と国際関係」(IM)研究所学者グループのまとめた『民主的オルタナティヴ—現代社会の民主化の諸問題』を中心的に、ソ連共産党内のペレストロイカ推進派の諸論を検討してみよう。

ご存知のとおり、ボレミークは公認マルクス主義者である。その彼らが「創造」した理論は自らが社会主義と規定づけた國家がそうではないことと、その改革の階級的正体は何かを明らかにしてくれる。同時に既存の支配構造の根幹に手を触れることなく「危機」を乗り切るために、彼らがネオマルクス主義の諸方法・国家論と経済上の構造改良運動理論とを導入している事実をも明らかにする。

「進歩」と「革命」

東西十二カ国の「国際労働運動の主要な潮流としての共産党社会民主黨、社会党的代表者を招いた」シンポジウムは八八年十二月にモスクワで開かれた。

冒頭に開会挨拶に立ったIM

EMO所長アリマコフは、旧来の「教条主義的見解を拒否」し生起する諸事件をリアルに評価して理論問題に結論を出したいとした上で、①国家間関係は対立する社会・政治体制間の実力による闘争を除去し、②その対立する原理の弁証法統一の生産

ドにおける「体制内改革」運動上の国家をめぐる主張は、力ガルリツキ「ラ急進改革派」の関係の変化の一定の可能性と④みならずネオ・スターリニズムに抗してペレストロイカ貫徹を標榜するソ共内勢力にもひきつがれている。今号はそれらのなかから、ソ連科学アカデミー・「世界経済と国際関係」(IM)研究所学者グループのまとめた『民主的オルタナティヴ』を討論したいと提案して

「世界経済と国際関係」(IM)を中心に、ソ連共産党内のペレストロイカ推進派の諸論を検討してみよう。

国家が擬制的にであれ自らの権益のために掲げてきた「社会主義的性質を問うてはならず、か

つ、「誰が誰を?」(国家支配

体制への「連帯」の旗をかなぐり捨て、西側の支配秩序、すなわち米帝を頭目とする国際反革命

金奴隸の轭に縛りつけ、一国社

会第一に国家を「社会主義」か

は第一に国家を「社会主義」か

されではならない」としてブロ

レタリアートの国家との闘争を

全面否定する。第二にその根拠として「人類全体の生き残りの問題」だけでなく、「いちぢる

しく強まつた生産の国際化」をあげ、また、これが小稿にとつて重要なのが「資本主義社会の変化的革命的な道と進歩的な道」なる概念を導き出してい

る。

プリマコフはこの二つの道に

関して次のように言う。マルク

ス・レーニン主義はその進歩の

道、「すなわち資本主義の枠内

で生じている生産諸関係の進化

的変化」に対する研究が不十分

だ。ところが、ソ連のIM

は、ソ連のIM

は、ソ連のIM